

令和3年度第1回検討会で議論した意見について、ビジョンの項目別に振り分けて整理した。これらの意見のうち、本ビジョンに反映できるものは、ビジョンの各項目に反映している。一方、解決に向けて時間を要する課題や、引き続き検討が必要と思われる事項については、ビジョン別添として本検討会【資料7】課題、引き続き検討すべき事項に整理している。

7. 施設の整備と維持管理(登山道区間ごとの施設整備・維持管理シート)

項目	主な助言・意見	回答(案)
表3 区間シート取りまとめに向けた優先順位 A：課題が無い区間	管理者不在の未執行区間については、課題として残してほしい（ガイド連盟 古賀代表）	管理者不在であることを課題として残す。
	管理者が鹿児島県の区間については、これまでの検討会の中で鹿児島県だけで対応していくことは難しいとコメントがあったが、それは課題にしなくてもいいのか？（ガイド連盟 古賀代表）	将来的に執行できなくなった場合でも、管理を引き継ぐようなかたちで国立公園の管理は調整をしている。
表3 区間シート取りまとめに向けた優先順位 B：共通の課題がある区間	区間2 登山口～愛子岳山頂について、携帯トイレブースの今後の課題のところで、登山口付近または屋久島総合自然公園入口に回収箱を設置することを検討するとなっているが、総合自然公園は間違いなので修正が必要（環境省屋久島事務所 水川保護管補佐）。	「登山口付近に回収箱設置するなど」と修正。
	利用体験ランク 4、5については、宿泊施設及び携帯トイレ回収 box については、課題として残さなくてもいいと思う。課題として残すのであれば携帯トイレや避難小屋を設置する環境保全上のリスクも明言した上で書いてもらいたい。設置等、利用の推進ありきの書き方に見えてしまうので、懸念するところである（柴崎委員）	携帯トレイ回収の仕組みに関する議論は必要であることから課題として残す。 利用体験ランク 4、5の区間では、年間利用者が少ないことから区間中の宿泊場所整備は適当でないとして留意点として記載。
表3 区間シート取りまとめに向けた優先順位 C：解決までに議論を要する課題が残る区間	区間8-2 大株歩道入口～高塚小屋で規制等についての記載はないが、離合の際に木道から利用者がはみ出しているので注意喚起が必要だと思う（町議会 榎議員）。	木道全域に関係する事項であるため、区間シートではなく情報発信（案内標識）や利用者誘導（利用ルーツ）で記載する。
	トロッコ軌道の維持やトイレにつて、前々から後ろ向きの発言ばかり	担当者レベルでの意見交換会については今年に

	りが目立つが、何か前向きな話があるのなら行政関係者から教えてほしい（ガイド部会 伊熊副部長）。	入ってまだ1回目できていない（環境省）
		新高塚避難小屋に環境省自己処理形のトイレは設置から10年経過しており、その間に様々なトラブル等があった。今後運用していくために本年度は第三者の評価をしてもらう事業を予定（環境省）
		大株歩道のトイレについて、トロッコ道の改修をした場合はどれぐらい費用がかかるのか、し尿処理についての今後の方法を検討するなど、今動いているトイレについての課題を整理するための調査を予定しているが、本年度は予算がついていない（鹿児島県 駒壽係長）
		鹿児島県では、例えば残滓だけを運ぶというシステムを検証したいということだったので、県の検討待ちだと認識している（森林管理署 西署長）
	トイレ・携帯トイレブースの設置となっているが、トイレ・携帯トイレブース・回収ボックスの設置として、回収ボックスも入れて検討課題としたほうがいい（岳参り伝承会 中川会長）	トイレ・携帯トイレブースの設置では、回収ボックスも含めて意見をいただいていたので、項目に改めて回収ボックスは入れない。
	雷時など、かなりの豪雨になったときの人の利用の多い場所に関しては避難施設的なものも考えていく必要がある。休憩施設・避難施設の項目に入れて検討課題としてほしい（岳参り伝承会 中川会長）	この段階で「避難施設等」については追記しないこととするが、留意すべき事項として、議事録や議論の整理に残す。

第2回検討会の検討内容：管理者不在の区間は課題として残すこととし、優先順位AとBについては同意いただきたい。優先順位Cの課題（トレイ、トロッコ道）は資料7で引き続き検討。

8. 利用者誘導と情報の提供 (1)利用者誘導

項目	主な助言・意見	回答
1) 誘導方法の構成	2) 共通の誘導方法と重複した記述なので、1) 誘導方法の構成で重複している部分を削除したほうが良い (吉田委員)。	1) 誘導方法の構成で重複している部分を削除。
2) 屋久島山岳部共通の誘導方法	ガイド同伴の場合には、看板には「登山道周辺の動植物の情報、歴史、利用ルール、制限事項などの」が入らないように読み取れてしまう (岳参り伝承会 中川会長)。	「ガイドが同行する場合には、ガイドから電子媒体や標識による情報にとどまらず、より詳細な情報を伝える」と修正。
	「登山道周辺の動植物の情報、歴史、利用ルール、制限事項などの」は電子媒体や標識にも入れて、ガイドを同伴する場合には、より詳細な情報を伝えると修正すべき (柴崎委員)。	

第2回検討会の検討内容：一部の記載内容は修正が必要。それ以外の記載内容については合意いただきたい。

8. 利用者誘導と情報の提供 (2)情報の提供

項目	意見	回答
②標識による情報提供	「多言語は英語に限定」するのかどうか、記述を合わせてほうが良い (レク森 日高氏)	「外国人利用者に対応した英語、ピクトグラムを併記」と修正。
2) 情報提供の内容	表3 標識の種類ごとの機能・設置場所、表4 屋久島山岳部標識 (案) にも、神聖な山であることを認識してもらうために「神聖な山へ入ることへの心がまえ」を追記したほうが良い (柴崎委員)。	表3, 表4にも「神聖な山へ入るにあたっての心がまえ」を追記。
	表4 屋久島山岳部標識 (案) の道迷いについては、道迷いをする場所であるということを認識させるような表現にしてもらいたい (ガイド部会 中馬会長)。	「道迷いの程度」→「道迷いのリスク」へ修正。

第2回検討会の検討内容：一部の記載内容は修正が必要。それ以外の記載内容については合意いただきたい。

難易度の考え方と示し方

項目	意見	回答
図2 「山のグレーディング（仮称、イメージ）」	体力度は最大7なので、そこまでの表にしたらどうか（岳参り伝承会 中川会長）。	全国的な基準に合わせたいので体力度は最大10で作成する。
	観光客が見る資料とするならが困惑するので主要ルートに限定したほうがいい（柴崎委員）。	登山地図には主要ルート以外にも歩けるツアーとして掲載しているので、全29ルートを入れた表にする。
	晴天時の表であって、荒天時には変わるので慎重に取り扱ったほうがいい（柴崎委員）。	国内で作成しているグレーディングも荒天時にはより難易度が高くなるルートもある。登山利用の際の前提条件は記載する。

第2回検討会の検討内容：難易度の策定は、屋久島山岳遭難防止対策協議会などの遭難救助に関与している関係者等で協議を進めており、あるべき利用体験ランクとともに、本ビジョンに付随する、情報発信事業において活用していく。

9. モニタリング

項目	意見	回答
表3 管理目標ごとのモニタリング内容と項目	未定の項目については、いつ決まるのか？（ガイド部会 伊熊副部会長）	今後別途協議の場や行政の意見交換会も含め、世界遺産の管理計画の作業部会等々、幾つか既存の会議や別途話し合いの場があるので、そういった中で詰めていくことを考えている。
	表中の「－」は該当しないという意味になるので「(現段階では) 未定」と修正したほうがいい（土屋委員）。	「－」→「未定」と修正

第2回検討会の検討内容：一部の記載内容は修正が必要。それ以外の記載内容については合意いただきたい。

10. その他(管理体制・担い手確保)

項目	意見	回答
(1) 管理体制	関係行政機関は山岳ビジョンを総合的な指針として認識するという ことは了解しているのか？(ガイド連盟 古賀代表)	検討会に参加してきた関係機関は、会議後には 各行政に持ち帰り検討しているので、了解済み といった認識でいる。
〔求められる役割〕 新た に発生した国立公園内の 課題	具体的例として「屋久島空港拡張」を追記してほしい(柴崎委員)。	利用者数の増減に関わる事例については資料7 に入れる。
	延伸については具体的にはこの段階では書けない(熊毛支庁 塚元 事務所長)。	
	管理体制には求められる役割を書いているので、「資料10. その 他」には例を入れるのではなく「資料7. 課題」に入れたほうがいい。 (吉田委員)。	
＜山岳部が有する個別 課題等＞※資料7に再掲	環境省としての姿勢は必要だが、他機関の方向性の記載が少ないと 感じる。 屋久島町第二次振興計画で山のトイレを携帯トイレに一本化するよ う検討するということは表明しているのは事実なので、そういうこ ともきちんと事実として載せるべき(柴崎委員)。	携帯トイレの一本化に向けて検討するという、 曖昧な表現になっているためここに載せるのは どうかと思っている。山岳保全利用協議会で平 成22年度以降の携帯トイレ導入方針というの があるので、それを継続して、携帯トイレに向 けての検討はしていく(屋久島町 日高統括係 長) ※資料7に再掲
	協議が必要としているが決めていないので、今後も結 論は出さない予定なのか？(ガイド連盟 古賀代表)	資料7で議論する
ビジョン全体の見直し	モニタリングには見直しの時期が記載されているが、ビジョン全体 の見直しもしくは改定についての時期の記載がないので、この項目 で記載すべき(柴崎委員)	ビジョン全体の見直しについては、モニタリン グの見直しと同じ期間程度になるよう下記のよ うに追記する。 「本ビジョンは、世界遺産及び国立公園の管理 に反映するため、その取扱いは遺産地域管理計

		画及び国立公園管理計画等に準ずる。このため、本ビジョンは概ね10年毎に内容の評価、継続・見直しについて検討を行うこととする」
--	--	--

第2回検討会の検討内容：一部の記載内容は修正が必要。それ以外の記載内容については合意いただきたい。

課題、引き続き検討すべき事項(ビジョン別添)

項目	意見	回答
課題、引き続き検討すべき事項の取り扱い	ビジョン別添として印刷したものが出されるのか？（地域連絡会議 日下田氏）	ビジョンと同じ冊子になるか、別刷りなのかは今後決めていくが、印刷したものは残る。
(1) 山岳部のし尿処理と山岳トイレ	環境省としての姿勢は必要だが、他機関の方向性の記載が少ないと感じる。 屋久島町第二次振興計画で山のトイレを携帯トイレに一本化するよう検討するということは表明しているのは事実なので、そういうこともきちんと事実として載せるべき（柴崎委員）。	携帯トイレの一本化に向けて検討するという、曖昧な表現になっているためここに載せるのはどうかと思っている。山岳保全利用協議会で平成22年度以降の携帯トイレ導入方針というのがあるので、それを継続し、携帯トイレの取扱いについては今後検討していく（屋久島町）※資料6 再掲
	既存の登山口トイレは積極的な運用が良いのではないかと（町議会 榎議員）	登山口トイレの運用については管理者の方々とも確認をした上で、適宜内容に反映する。
(3) トロッコ軌道の維持	光清掃社が保線したり修理をしたりしている。どういった経緯で委託しているのか？（ガイド部会 中馬会長）	鹿児島県が維持管理の予算取りをして、大株歩道入口のトイレ清掃、維持管理のお金として町へ管理を委託している。町は再委託ということで光清掃社さんと契約を結んでいる（駒壽さん）。
		光清掃社のトロッコの話は、役場内の別の所管で取り扱っているのので後ほど回答したい（羽生

		さん)
(4) 管理者不在の歩道等の取扱い	不適切な観光利用とはどういったことを想定しているのか？	一般的に開放していない登山道、利用を推進していない登山道（高盤岳、翁岳頂上、石塚山）へ登山者が独自で入り、自分たちで観光を利用するということを想定している。
(5) 避難小屋	白谷小屋の経緯の記載が違うので訂正してほしい（岳参り伝承会 中川会長）	「小杉谷山荘の代わり、または白谷雲水峡側から縄文杉へ行く足掛かり的な場所として建てられた」と修正
(6) 施設の維持管理等における現場の担い手	林野庁のグリーンサポートスタッフさんも大きく貢献されていると思うので追記してほしい（柴崎委員）	グリーンサポートスタッフによる巡視は「管理者自ら職員実行」に入るので、このままの記述とする。
	取り組みの方向性には、一元的に担う組織の発足を検討とあるが、国の予算と利用者負担の協力金、鹿児島県の予算といったものを一元化して、トロッコの維持管理または山岳部の管理を考えていかないと、方向性が見えてこない（ガイド部会 中馬会長）。	
(7) 安全管理	取り組みの方向性には調査結果を踏まえて自然環境への支障を十分に配慮しつつとあるが、具体的に何か示されることがあるのか？（町議会 榎議員）	無線やその他一般利用者の方の携帯の通信状況もあるので、新規で設置する際に自然環境への支障がないかどうかという意味。

第2回検討会の検討内容：それぞれの課題への取組の方向性について、大きな相違がなければ、合意いただきたい。今後、ビジョンを実行していく上で、すぐに解決できない課題については既存協議会を活用して検討を継続する。